

あけぼの山周辺地域将来構想(案)に関する

パブリックコメントの 実施結果について

令和7年8月

柏市

《目次》

1. 実施概要	P3
2. 回答状況	P5
3. 御意見	P7

1. 実施概要

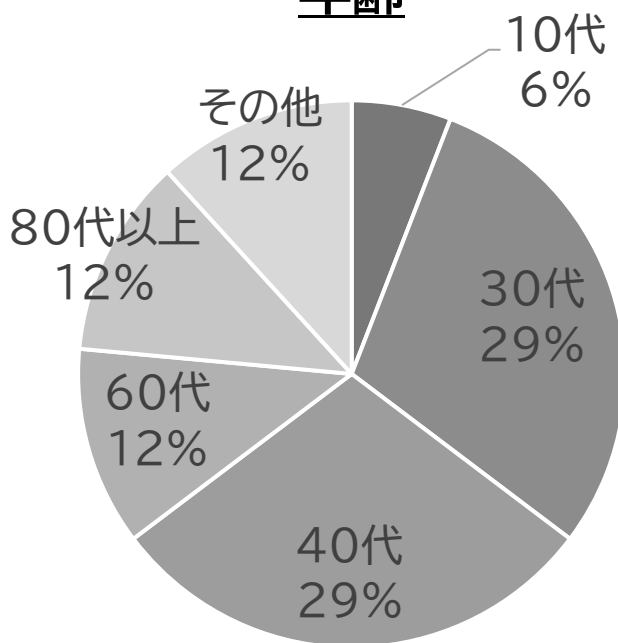
- 募集期間** 令和7年5月30日(金)から6月30日(月)
- 閲覧場所** 柏市ホームページ, 公園緑地課(分庁舎1-3階), 行政資料室(本庁舎1階), 行政資料コーナー(沼南庁舎1階), 各近隣センター, 富勢出張所, 柏駅前行政サービスコーナー
- 提出方法** 受付フォーム, 郵送, 窓口持参(行政資料室, 行政資料コーナーを除く)

2. 回答状況

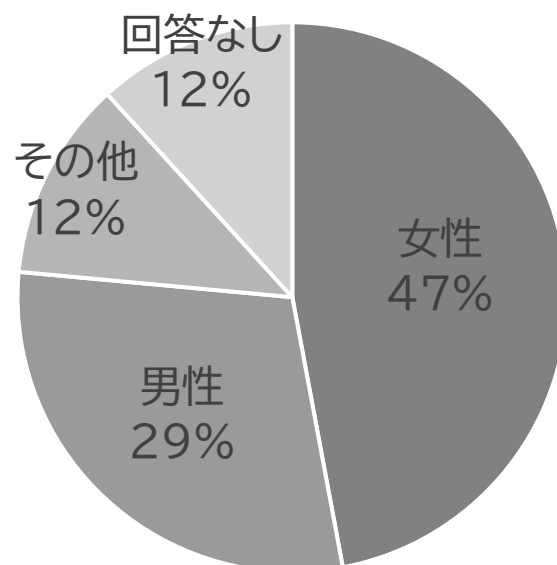
回答者数 17名

意見数 54件

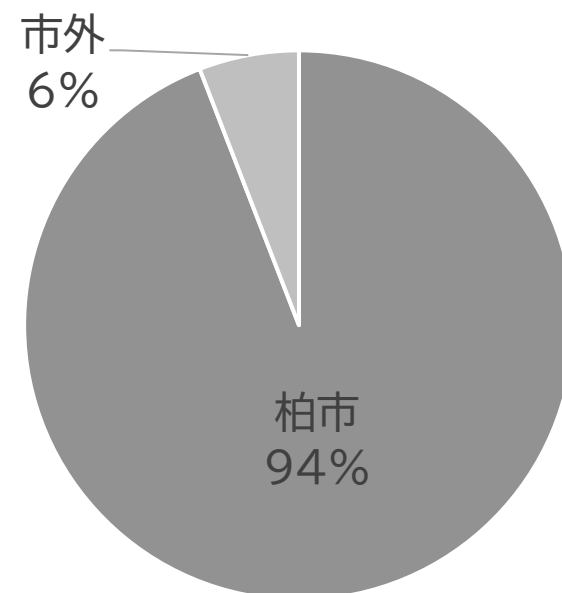
年齢



性別



お住まい



3. 御意見

<1> 公園の概要について

No.	御意見	市の考え	頁
1	私も「自然や花畑に癒される」「宝だ」「自慢だ」と感じています。他施設と比較する必要はあるのでしょうか。同種とは、どのような種類か理解できていないのですが、目指す方向の異なる施設と比較するのはなぜなのでしょう。あけぼの山公園はどこを目指しているのでしょうか。自然や花畑でしょうか。自然の最大の魅力は「いつもただそこにあること」だと私は思います。全国各地、国内外から観光客を集めることを目指しているのですか。脳を刺激する派手さではなく「心と身体がほっと癒される深呼吸をしたくなる公園」を昭和53年から現在に至るまで守ってこれたのは、遠方からの観光客が大勢来たからではなく、地域住民、市民が宝だ自慢だと思い愛してきたからだと思います。目に見える華やかさに惑わされることなく、「目に見えない温もり」を大切に検討を進めていただけますよう、どうかよろしくお願いいたします。	本公園は、ほぼ市内利用しかない他の公園と異なり、市内が46％に対して、市外が54％(将来構想P12)となっており、市外の皆様も含めた多くの方に御利用いただいている観光施設となっております。 市外の多くの方にも評価いただいていることも、市民の皆様にとって自慢できる施設になっている要因の一つだと考えております。このため、今後も変わらず、多くの方に御利用いただき、評価いただけるような施設であることが、本公園の持続性に繋がると考えております。 いただいた御意見も参考に、今後の取り組みを進めてまいります。 なお、同種の施設とは、本公園と同様の花をテーマとする公園等であり、様々な施策の展開においては、本公園の状況を客観的に評価するために、他施設との比較も欠かせない検討項目の一つと考えております。	2
2	5ページの「公園の位置」の図の農地の位置に「千葉北西連絡道路」の記載がありますが、国土交通省の千葉北西連絡道路ポータルサイト内の【千葉北西連絡道路の概要】には「※概略ルート・構造の検討にあたっては、現道活用案も比較し検討を行う 概ねのルートを図示しているものではない」と注釈があります。まだ、ルートが何も決定していない段階で、誤解を招く恐れがあるのではないのでしょうか。千葉北西連絡道路の図を削除しても、あけぼの山周辺地域将来構想に影響はないと思います。	「公園の位置図」図面中に記載されている「千葉北西連絡道路」について、国土交通省の見解も踏まえ、記載方法を再検討します。	5

No.	御意見	市の考え	頁
3	5ページから、あけぼの山と緑の軸(手賀沼周辺／道の駅しょうなん／満天の湯など)を連携させる取組みを検討することはできないものかと思いました。一拠点では、12ページの訪問者傾向から考えると、市内の方々が大半とのことから、帰宅迄の時間は短いと考えられます。それであれば、複合的に楽しんでいただける、過ごせる空間を創出する方が柏市としての活性化に繋がり良いかと思えます。 手賀沼周辺はサイクルロードのPRもしてますので、田園地帯の一部、または利根川周辺等をうまく活用したサイクルルートがあっても良いかと思いました(両拠点で共通のレンタルサイクル等)。 また、本数は極端に少なくとも、シャトルバスがあっても良いかと思えます。	現在、道の駅しょうなんとの連携を模索しているところです。市内の様々な施設と連携し、公園施設の案内だけでなく、柏市内の様々な施設を案内できる公園を目指してまいります。 まずは本公園の課題解決による魅力向上を優先事項として進め、その過程において、御意見いただきましたサイクリングルートの設定やシャトルバスも民間事業者と供に検討を進めてまいります。	5・12
4	公園のランドマークでもある風車について、建設についての目的・時期についての記述がほしい。また、何処の風車をモデルにしたのか？	現在の風車はオランダ風車を参考としたものであり、チューリップ畑のシンボリックな施設として、平成5年に整備したものです。 本構想へも、同様の内容を追記します。	8
5	来場者について。四季折々の花で楽しめて魅力ある公園。茨城県が隣接しているにも関わらず茨城県民の利用が少ないなど。数年前までの橋が有料であったためにお手軽度がさがり周知されていないのではないかと思います。茨城県の特に守谷市、取手にはもっと周知してもらう機会があれば良いなと思えます。	隣接する市町村から来園される御利用者が少ないことは課題の一つであると認識しており、県内・県外にも本公園の魅力が認知いただけるようSNSやメディアによる情報発信の強化に取り組んでいきます。	12
6	基本姿勢として「全面開放」にするべき。市民、特に子供達が行きたい時、行ける時に閉まっているようでは誰のための公園か、と言いたい。年末年始、祝祭日、休日総じて開放すること。	現在の休園設定は、条例に基づき設定しているものになりますが、休園日には公園内の安全性を確保するため、施設の点検や維持管理を行っております。 今後の運営については、いただいた御意見も参考に、検討してまいります。	—

<2> 公園が抱える課題について

No.	御意見	市の考え	頁
7	「観光地としての魅力」多くの人へ認知してもらい広域からの集客をするのも良いですが、p12での「来園者の傾向」から柏市民が圧倒的に多い事が見て取れます。そこを強みと捉えて市民にとっての憩いの場となる公園を目指したら良いのではないのでしょうか。	本公園は、ほぼ市内利用しかない他の公園と異なり、市内が46%に対して、市外が54%(将来構想P12)となっており、市外の皆様も含めた多くの方に御利用いただいている観光施設となっております。そのため、市外の皆様からも評価されていることも現状の強みだと考えており、市内外の多くの方にとって魅力的な公園を目指してまいります。	12・14
8	来園者を「顧客」としてしか捉えられていません。結果として、サービス提供側だけからの視点での分析になっているように見受けれます。私は月に一度ほどの頻度の来園者ですが、単に野山・里山としての利用です。誰かのサービスを受けに顧客として訪れているつもりはありません。アンケート結果に「来園者が期待することは、今後も風景・風車前の花畑の維持・強化であり、7割に上る。」とあります。しかしアンケート方式が既定の項目からの複数選択式だったとすれば、1位の「自然」の風景という点はキーワードとして重要であり、結論から省くのは不適當です。というのも、この項目立てであればキーワードの近さから私も1位と2位の項目を選択すると思うからです。私の考えは「単に自然な野山の維持。花畑はそれに次いで、維持できるならそれに越したことはない」です。もちろん花畑は素晴らしいですし、園芸の方々の技術や労力には敬意を抱いています。しかし日常の野山遊びと地つづきの延長にあるからこそ観ることができているのであって、駐車場代やら入園料やらで垣根を作られたら、そこまでして観に行きたいとは思いません。ましてや自由に野遊びできる場が減るようであれば論外です。アンケート1位や2位の項目に、私のような考えの来園者の意見がどのくらいの割合で反映されているかを把握しないと、来園者の期待の実像を見誤ります。	本公園は、携帯の位置情報を活用したビックデータから分析に基づくと、春のチューリップ、秋のコスモスの時期に来園する方が多い状況となっており(将来構想P14 月別来園者数の推移)、また花畑周辺周辺のエリアに多くの方が集中していることから、風車と花畑の景観を楽しみに来園されていると認識しております。一方で、これらの多くの方は、本公園のあけぼの山(桜山)や布施弁天などの公園周辺地域全体の魅力を知らずに帰っていることが推測されます。このため、御意見でいただいた野山や里山も含め、多くの方にあけぼの山の魅力を知っていただけるよう取り組みを進めてまいりたいと考えています。	14

No.	御意見	市の考え	頁
9	来場者の年齢層をみると、40代と70代が多いですが、家族連れで遊びにくる、退職後の憩いの場としての利用ですね。『子どもが公園で楽しかった！』と思えることが持続可能な公園のあり方になるかと。自然をもっと知れる、自然でもっと遊べる機会があると良いかと。自然に触れたり、遊んだりできるイベントがあると、帰ってからでも真似することもできたりするのかなと。	あけぼの山周辺地域懇談会においても、委員から同様の意見をいただいております。将来像において「この公園が子どもの頃の思い出の地となるとともに、自分の子供や孫とも来園したい、世代が変わっても来園したいと思われる公園」(将来構想P18)を目指すとして整理しておりますが、既存の自然環境を活かして、再整備を進めてまいります。 また、自然に触れたり、遊んだりできるイベントとして、森の中で遊ぶあけぼの山里山パーク、昆虫観察会、ツリークライミングなども開催しております。 引き続き、指定管理者とともに、自然環境を活かしたイベントの充実を図ってまいります。	14
10	「公園の魅力について」既にあけぼの山公園は自然に溢れ魅力ある公園であると考えます。他の公園と比べて整備され、人工的に管理されている自然ではなく、最低限の管理の中で動植物の本来の姿を身近に感じることができます。私の子どもは植物を手にとったり、実を拾い臭いを嗅いでみたり、落ち葉の上を歩く感覚を楽しんだりしています。花壇に植えられている花ももちろん綺麗ですし、癒されますが実際に触れることのできる自然に大きな価値を感じています。こうした体験の積み重ねが自然を思う心を育てていると思っています。見るだけではなく五感全てで自然の恵みを感じることが特に今の子ども達の成長には大きな大きな財産になると信じています。そうすれば成長して大人になってからもまたこの公園に戻ってくることにも繋がるのではないのでしょうか。また写真を撮り SNSに投稿することだけが思い出作りではないと思います。日常を楽しめる公園であって欲しいです。	本公園の魅力については、花と風車の魅力が多くの人を惹きつける最大の特徴であると考えておりますが、御意見のとおり、本公園では自然そのものも大きな魅力だと考えております。一方で、イベントや体験コンテンツ、遊具など、その他にも多様な魅力を有している公園だと認識しております。 そのため、来園者が各々の目的をもって、それぞれの楽しみ方で公園を御利用いただいているのが現状であり、現在の自然環境の魅力も活かしつつ、様々な課題を解決して、魅力向上の取り組みを進めてまいります。	14

No.	御意見	市の考え	頁
11	「本来イベントがなくても来園する公園であるべき」本当にその通りだと思います。私達は、イベントで来ることはほとんどありません。日常で楽しめる公園だと思っています。柏市民として子どもに特別感はこちらでなくても良いと思うのです。身近なところに、いつも行くところにこんなに素晴らしい公園が一つあればそれで良いのです。	本公園を日常的に御利用いただくことは、非常に大切な視点だと考えております。一方で、非日常としてのイベントも、本公園の魅力であり、イベントをきっかけに日常的に御利用いただけるリピーターになっていただくことも重要だと考えています。 日常、非日常どちらも本公園には重要であります。御意見の日常的に御利用いただける視点を大切に、本公園の魅力向上の取り組みを進めてまいります。	14
12	公園への来園者が非常に多くなる花畑におけるチューリップ、ひまわり、コスモスについて、毎年フェスティバルが開かれていると思いますが、これについての記載がない。	将来構想において、現在行っているイベント等の事業は、ページ数が多くなることから割愛しておりましたが、追記いたします。	14
13	14ページの2番について、滞在時間が短いのは子どもが楽しめるスペースが少ないからだと感じている。私自身4歳の子供を連れて遊びに行くが、魚に餌をやり遊具で遊ばせたら正味3時間。お昼を持って行ったとしてもその後はまた同じ遊具では遊ばない。年齢がもっとあがったら楽しめなくなり行かなくなると思う。幅広い年齢層が楽しめるアスレチックや、キッチンカーだけでないフードの充実が必要だと思う。	滞在時間の短さは、御指摘の「子どもが楽しめるスペースが少ないこと」も要因の一つと思っています。今後の公園再整備においては、既存の自然環境で触れて遊べる環境に加えて、お子様の遊び場を充実させるとともに、飲食の提供についても、民間企業との対話を踏まえて、検討してまいります。	14

No.	御意見	市の考え	頁
14	子供にもっとフォーカスした設計を進めた方が良いと感じます。短時間滞在の傾向があるため、子供のアクティビティ材料を増やすことで、家族世帯での滞在時間をまずは伸ばす政策が必要かと感じました。滞在時間が少しでも伸びることで、周辺での飲食や新たな発見等、来園者側が発信してくれることに繋がると思います。 また、子供のアクティビティはアスレチック等でなく、楽しく食の勉強に繋がる農業体験が良いと思います。例えば、抽選で小規模に農業区画を半年程度期間を登録制で貸し出し、農業を営んでいた方をシルバー人材として管理人のような形で運営を手伝っていただき、栽培したものを収穫時期に何かしらのイベントと併せる等、子供とご年配の方々、農業が交わるエリアとしてブランディングできたら理想的だと感じました。	お子様が楽しめるコンテンツは重要だと考えており、今後の公園再整備においては、既存の自然環境に触れて遊べる環境に加えて、お子様の遊び場の充実も図ってまいります。 また農業体験については、現在、富勢地区ふるさと農園営農組合が、芋ほりや田植え体験を実施しているところですが、今年度より、公園運営者である指定管理者(民間企業)でも「サツマイモを育てて食べよう！」という継続的に育てることも含んだ体験イベントを開催しております。引き続き、指定管理者とコンテンツの充実を検討してまいります。	14
15	「観光地としての魅力」観光に力を入れるのはなぜでしょうか。風車と花畑は今まで通り観光のためのシンボルでよいと思いますが、拡充しようとするのはなぜなのでしょう。抱えている課題は観光色を強める方向では解決しないと感じます。	本公園は、ほぼ市内利用しかない他の公園と異なり、市内が46%に対して、市外が54%(将来構想P12)となっており、市外の皆様も含めた多くの方に御利用いただいている観光施設となっております。 特に風車と花畑が本公園の一番の魅力となっており、この魅力を今後も磨いていくことは、本公園に必要なことと考えております。 一方で、課題解決には、様々な取り組みを多面的に進めていく必要があり、御指摘のとおり、観光地としての魅力向上だけが、抱える課題解決になるとは考えておりません。そのため、将来構想で例示した施策は、各課題の解決に資する様々な観点から整理したものとなります。	14

No.	御意見	市の考え	頁
16	あけぼの山の魅力は「風車と花畑」「自然の豊かさ」「歴史的資源」であることを同じように感じます。一方で観光資源として有効活用すべきという考え方については疑問をもちました。魅力ある地＝観光資源と考えることが絶対だとは私は思いません。誰のための場所なのでしょう。市民はこの地を観光資源にしたいと思っているのでしょうか。誰がそう思っているのでしょうか。 空間やハード面に期待することは何ですか5位「アスレチックなどの遊び場」についてです。アスレチックは大人が遊ばせる場所であり、本当の意味での子どもの遊び場と はずれているように感じます。子どもの遊び場だと決めているのは大人であるところが気になります。自主性が注目される現代の乳幼児子育て・保育・教育ですが、大人が与えたものではなく、自然が大人子どもを含むすべての生き物に与えてくれたもので遊ぶことが子どもたちは必ずできます。理論ではなくそれが本能だからです。小さな怪我をしながら、心と身体のバランスをとって遊べるように成長します。遊具に魅了される大人は多くないと思いますが、自然に魅了される大人は多いです。子どもの隣で大人も穏やかな心地になり、子供の成長をあたたく受け止められるのは他でもない自然の力だと思います。これもまた理論ではなく本能だと思うのです。本能の声をきける大人子どもでありたいと感じます。「イベントがなくても来園する公園であるべき」という点に関して同じように感じます。私はあけぼの山をそのような公園と感じています。前述の遊具も同様ですが、与えられたものでしか楽しめない、知恵と工夫を出し合う楽しさを経験していない子どもが母親父親になっているのが令和なのかもしれません。私も偉そうなことは言えず、今、子どもの隣で自然の中で頭をひねらせることを楽しめるようになってきたところです。〇〇をつくろう、というような大人が用意した自然物でのイベントとは視点の異なる、自然が用意してくれた環境の中で、大人も子どもも知恵と工夫を出しあう楽しさを味わえるイベントがあり、それがイベントにとどまらず、平時的楽しさに発展していくとよいのだろうと思います。 「子どもの心を育んだ大切な思い出の場所…」という点についても同じように感じました。我が子にもそうであってほしいし、きっとそうなるだろうと思いながら日々あけぼの山で過ごしています。ひとつ不安に感じたことは、アスレチックやイベントが大人子どもの心を育むと主張されているように感じたことです。そうではないと思います。親子・仲間と心を動かし、頭を動かし、身体を動かし過ごした時間が子どもの心を育むと強く感じています。 近年の夏前後の暑さは、来年再来年、今の子どもが子どもを産むところには更に拍車がかかるかもしれません。大がかりなこととは承知ですが、流山市野々下水辺公園のように利根川からひいた水や、井戸水で1年中思う存分水遊びができる場所ができたらいいいと思います。	本公園は、年間来園者50万人を超える、柏市の主要な観光地となっています。実際、ほぼ市内利用しかない他の公園と異なり54%の方は市外の利用者となっています。これは、本公園を魅力に感じて、遠くからも足を運んでいただいていることであり、市としては、今ある観光地としての魅力を止めてしまうのではなく、今後も継続していくべきと考えております。 このため、この将来構想では、あけぼの山周辺地域懇談会における委員意見も踏まえて、公園の魅力向上に向け観光資源として活かしていくことも一つの目標として整理をしておりますが、この観光が、公園の魅力向上における全ての目標ではありません。将来構想P18～P19に記載される9つの目標を達成することで、現状の課題を解決し、公園の魅力向上に繋がっていくものと考えております。 御意見でいただいているとおり、公園の遊びに際して冒険や挑戦に伴うリスクは、子どもの発達にとって必要な危険性であると、国の指針において示されております。子どもは小さなリスクへの対応を学ぶことで経験的に危険を予測し、事故を回避できるようになるとされています。あけぼの山は起伏にとんだ自然環境が豊かな場所であるので、遊具も含めて様々な遊びの選択肢がある公園として御利用いただき、思い出の場所になっていくことを期待しております。 水遊びについては、一定のニーズがあるコンテンツだと認識しております。公園の再整備においては、いただいた御意見も参考に、導入の可能性について検討してまいります。	14

No.	御意見	市の考え	頁
17	たとえば夏季、高温下で屋内でゆっくり休める施設がありません。子ども連れ、高齢者共に厳しい環境です。車で直接アクセスできる場所にカフェ等飲食の企業を誘致できれば良いのですが。	現状は、資料館にキッズルームはありますが、様々な方が休憩できるような屋内スペースは御指摘のとおり、無い状況です。一方で、夏季の熱中症リスクへの対応は重要な視点と捉えています。 このため、今後、民間企業との対話の中で、夏場でもゆっくり涼みながら休憩できるカフェ等飲食店の誘致も検討してまいります。	15
18	「魅力ある物販・飲食情報・休憩所などが一体的に提供される施設が重要」 「来園者が希望するサービス」として、物販や飲食のことがあります。が、小さな親子連れにとってはそれが苦痛に感じることがあります。「あまり見せたくないおもちゃや食べ物を見られてしまう」「買うつもりのないものを買うことになってしまう」など。「飲み物1杯なら買おうかな」「お昼ご飯は今日は買って済ませて楽しよう」「孫や子どもが欲しがるからたまには買ってあげよう」というようなことは、日頃から私も思うことはあります。でも本当に子どもに見せたい姿は少し違います。「ゴミになりそうなものは買いたくない」「本当に必要なものか考えたい」「節約したい」そう感じる人は私だけではないはずです。お金や物をどんどん消費するのが当たり前の現代ですが、その流れのまま便利でキヤッチーなもの(コンビニ感覚のお菓子や食べ物、どこにでもあるガチャポン、壊れやすい安価なおもちゃ)などは安易に取り扱わないでいただきたいです。これまで通り、地域の農家さんの作る野菜や加工品、柏や千葉のグッズは取り扱っていただきたいです。地域の歴史や伝統を紹介する場はもちろん、地域で活躍している企業や学校やサークルなどの地元に着目した情報提供もあると嬉しいです。	物販や飲食の内容については、いただいた御意見も参考に、サービスを提供する民間企業との対話により検討してまいります。 また、地産地消の視点も重要だと考えており、現在、資料館にある売店では地元の加工品や千葉県のグッズ等の取り扱っているところです。また、今後、公園内で地産の野菜等の販売も検討しており、地産販売や情報提供の充実について、公園管理者である指定管理者(民間企業)とともに進めてまいります。	15

No.	御意見	市の考え	頁
19	p.15「夜のイベント」「コンテンツ」という言葉に、前ページの「風車と花畑」「自然の豊かさ」「歴史的資源」というあけぼの山の魅力はどこへいったのだろうと戸惑いました。あけぼの山公園はどこを目指しているのでしょうか。また、次の行の「公園の魅力向上」という言葉がやや気がかりに感じ、「地域の魅力を後世に伝えよう」という視点で八朔相撲や布施焼きなどの尊い文化を継承する礎になっていただけなら心強いなあと感じました。 このページを通して、構想案ではあけぼの山のどこを魅力と感じ、どこを目指しているのだろうと再度感じました。ひたちなか海浜公園や足利フラワーパークのように大人数が集まる公園を目指すのでしょうか。誰のためですか。 サービス3位「イベントの強化」について、「この国でどんな子どもを育てたいのか」を構想案を進めるうえで責任をもって考える必要があると思います。「誰かにやってもらう、教えてもらう（受け身）」「遊ぶのにお金がいる」そのような機会を増やすことが子どもの育ちにどのような影響を及ぼすのか、親ひとりひとりも改めて考えるべきとも思います。提供側としての想いをもち、目に見えない心の根を育てる公園であってほしいと思います。「自らの声に由来して（自由）お金をかけずに楽しく過ごせる」公園があり、楽しむ力をつけていくサポートを提供できる方法はないものかな、と考えました。	P14～16は、公園の課題を示したものです。 P15は公園で提供するサービスに関して示したものであり、あけぼの山周辺地域懇談会において、夜のイベントといった来園したいと思えるようなコンテンツが不足している御意見もいただいているところです。 一方、「風車と花畑」「自然の豊かさ」「歴史的資源」が記載されるP14は、公園のデザインについて示したものであり、P14とP15は別の視点から課題を整理したものにしますので、それぞれ別の課題として考えていただければと思います。 また、目指す姿については、P18～21に記載しており、P14の現状の課題に対応する目指す姿はP18に、P15についてはP19、P16についてはP20に記載しておりますので、御覧いただければと思います。御意見でいただきました八朔相撲や布施焼きについてもP19に記載しております。 あけぼの山全体の目指す全体の方向性については、P21に示しており、「花と共にあなたの大切なひとときを過ごす場所」をキャッチコピーに、この公園が安らぎやワクワクといった幸せを感じる場所であり、元気がでるし前向きな気持ちになる。家族や友達、恋人など、子どもから大人まで、自分の大切な人とかけがえのないひとときを過ごす場所であり、そういった市民の豊かな生活の実現に寄与する公園を目指すこととしています。 お子様に対するコンテンツの提供内容や費用負担に対する御意見については、大切な視点であると考えており、参考にしながら、検討してまいります。	15

No.	御意見	市の考え	頁
20	交通アクセスについては、確かに道路の混雑は否めません。来園しやすいように道路の整備は必要かと思います。どうぞよろしくお願い致します。	来園しやすい道路整備の実現に向けて、取り組みを進めてまいります。	16
21	周辺住民として各花の見頃になると家の前の道が大渋滞でなかなか出ることが出来ないことを大変不満に思う。公園が賑わうのはいいけれど渋滞は大迷惑。改善することを切に願う。	御不便おかけしており、大変申し訳ありません。渋滞の緩和に向けて、新たなアクセス道路と駐車場の拡大の検討を進めており、早期に改善が図れるよう、取り組んでまいります。	16
22	「持続可能な公園運営について」管理負担の大きさは解決したいですが、有料化は避けてほしいです。私は現在、親子で気軽に遊びに行かせていただいています。例えば駐車場が有料化や入園料が必要となるならば、残念ですが遊びに行かなくなるかもしれません。そして自然の中で遊びたいのに他に行く場所がなくて途方に暮れてしまいます。福祉施設の方がお散歩やお花見をしている姿もよくみかけますが、気軽に利用しにくくなるのではないのでしょうか。公園は、本来はお金をかけずに楽しめる場所のはずです。全国的に見ても大きな公園はどこも有料化しています。あけぼの山公園も広い土地を有した規模の大きい公園ですが、あくまでも“公園”であり“商業施設”ではないと考えていただきたいです。	あけぼの山周辺地域懇談会において、委員からは持続可能性確保へ向けた効率化や費用削減策の検討、公園全体で、民間との連携も含めたマネジメントを検討すべきとの御意見をいただいているところです。このため、現状の公園の魅力を維持・向上させ、かつ持続可能な公園運営を行っていくには、維持管理や運営、老朽化した施設の更新等の財源といった公園全体のマネジメントに取り組んでいく必要であると認識しております。市としては、多くの方に御利用いただける公園となるよう、いただいた御意見も参考にしながら、検討してまいります。	16

〈3〉公園の将来像と概ね10年後の目指す姿について

	御意見	市の考え	頁
23	既存の来園者を「顧客」として捉えた結論なためか、過分に観光業寄りの結論であるように思います。何よりも、自由に触れられる野山の自然を残してもらいたいです。野山に駐車場代や入園料などの垣根を設ければ、中に入る者は「顧客」になります。客にケガや事故があっては大変なので、管理者は園内を安全にすることに責任を負います。結果として来園者は、自分の責任で自然を相手にただ野山を利用したいような使い方はできなくなるでしょう。私はそれを危惧します。	本公園は、年間来園者50万人を超える、柏市の主要な観光地となっています。実際、ほぼ市内利用しかない他の公園と異なり54%の方は市外の利用者となっています。これは、本公園を魅力に感じて、遠くからも足を運んでいただいていることであり、市としては、今ある観光地としての魅力を止めてしまうのではなく、今後も継続していくべきと考えております。また、将来構想では、あけぼの山周辺地域懇談会における委員意見も踏まえて、公園の魅力向上に向け観光資源として活かしていくことも一つの目標として整理をしておりますが、この観光が、公園の魅力向上における全ての目標ではありません。将来構想P18～P19に記載される9つの目標を達成することで、現状の課題を解決し、公園の魅力向上に繋がっていくものと考えております。 なお、本公園はあくまで市の公園として提供していることから、市として公園の安全性を確保することは必要だと考えております。	18
24	「2.世代を超えて愛される公園」について。去年の夏休み「調べる学習コンクール」で「かしわにどうぶつ園をつくろう」という作品を作りました。動物園にはいのちの大切さを伝えることや種の保存という役割があるそうです。また、動物園があったら赤ちゃんからお年寄りまで楽しみながらお散歩ができて皆が喜ぶし健康にもいいと思いました。私はあけぼの山公園の中に動物園を作ってほしいです。	動物園の設置には、施設の管理運営や動物福祉、環境負荷、維持費用などがあり、容易に設置することは困難です。一方で、頻度は少ないですが、昨年度から動物に触れあう機会をイベントで設けておりますので、次回そのようなイベントを開催する際は、ホームページ、SNS等でも告知してまいりますので、情報を御覧いただければと思います。 今後も、公園運営者である指定管理者(民間企業)と動物に触れ合う機会の創出を検討してまいります。	18

No.	御意見	市の考え	頁
25	18ページ3デザインされた公園について、子どもの遊び場ですが、子どもは遊具などない何もない自然の中でこそ自由に遊びを生み出し、遊び続けることが出来るのです。虫や草花と親しむことで命の大切さや自然の有り難さを感じることができるのです。その経験が出来るのがあけぼの山公園という柏市の数少ない自然豊かな公園の一つだと思っています。レジャーや観光目的だけでなく、今ある自然を守り、より豊かになるように考えていただきたいと思います。	あけぼの山公園の現在の豊かな自然環境の魅力に十分配慮して公園再整備を検討してまいります。	18
26	同じような公園名が2つあると、紛らわしいので、やはり名称は一本化して、農業公園の関係者には、ご配慮いただいて、「あけぼの山公園」に統一した方がいいと思います。また、公園は、庭園でも名園でもいい！	あけぼの山周辺地域懇談会の委員からも同様の意見をいただいております、名称の統一を図ってまいります。	18
27	P18「1日楽しむことができる公園」 →綺麗な景色の中を散歩して写真映えるものやレストランを充実させたら滞在時間は長くなるかもしれません。でも思い付く大きな公園はどれも同じような整備をしていて、あけぼの山公園もそのようになるとしたら面白味がありません。 P18.3デザインされた公園 昨今の地球温暖化による暑さの対策も盛り込んで欲しいです。ここ数年は公園の最大の魅力である「心地よく外で過ごす」こともままならない暑さです。	P18「1日楽しむことができる公園」 あけぼの山ならではの魅力を創出できるように、民間対話を踏まえて検討してまいります。 P18 3デザインされた公園 夏の暑さ対策は重要であると考えており、再整備にあたって必要な視点として検討してまいります。	18

No.	御意見	市の考え	頁
28	多くの人を魅了し、柏市が誇る観光地にするのは誰のためなのか。これまでこの公園を愛してきた人、今現在この公園を愛している人のためではないように感じます。 2の項に「子どもの体験や学習につながる遊び場を充実させることで、・・・思い出の地となる...」とあります。果たして本当にそうでしょうか。ご自身の幼いころを振り返ると、どんな遊びが色濃く心に残っていますか。楽しかった遊びの場面を思い出してみたいです。大人が用意した体験会や親の視線を感じながら遊具で遊んだ場面ですか。自由に仲間ととことん遊び込んだ場面ではありませんか。大人目線で子どもの思い出の地を決めるのは慎重に考えたいところです。 3の頃、デザインと自然は相反するもののようにも感じます。「人工ではない自然」だけでなく、「不自然ではない自然」をたっぴり残してほしいと強く願います。柵が増え、禁止事項の看板が増える環境で子どもはたくましく育つでしょうか。親は子どもの成長を信じ見守れるでしょうか。自分の頭を使わず、誰かが決めたルールを守り、便利なものに囲まれ、怪我や喧嘩、工夫や挑戦を全くしない幼少期がたくましく健やかに生きる成人期に繋がるとは思えません。	本公園は、年間来園者50万人を超える、柏市の主要な観光地となっています。実際、ほぼ市民の皆様の利用しかない市内の他の公園と異なり54%の方は市外の利用者となっています。これは、本公園を魅力に感じて、遠くからも足を運んでいただいていることであり、市としては、今ある観光地としての魅力を止めてしまうのではなく、今後も継続していくべきと考えております。 子供の遊びの御指摘は、大切な視点であると考えます。思い出は、誰とどんな体験をしてどう感じたのか、どんな時間を過ごしたのかといった中身であり、必ずしも整備された環境が重要とは限りませんが、楽しい時間を過ごせる環境を整えていくことは必要だと考えています。 ランドスケープデザインは、快適性だけでなく、ここにある自然環境と調和した美しい景観を作り出すことであり、昭和45年にあけぼの山公園、平成6年にあけぼの山農業公園を整備した際も、周辺の斜面緑地などの自然環境を残し、調和するように配慮してきた視点になります。今回の公園再整備において、同様に、現在の豊かな自然環境の魅力に十分配慮して検討してまいります。 子供の成長については様々なお考えがありますが、多くの方に楽しんでいただける環境を創出できるよう将来像の実現に向け、取り組みを進めてまいります。	18

No.	御意見	市の考え	頁
29	P18「1日楽しむことができる公園」 「様々な場所に見所があり、世代別に人気の高いコンテンツを全て導入すれば1人あたりの滞在時間が伸びる」ということでしょうか。美しい写真スポット、オシャレなランチ、大きな遊具、少し手を動かすだけのワークショップ、全て魅力的です。大人は楽しいかもしれません。私は子育て中の身なので、家族や子どもと一緒にあけぼの山公園で過ごすことをイメージしながら申し上げます。あけぼの山公園には週に何回か遊びにきますが、遊具ではほぼ遊びません。大型遊具ができれば子どもは喜ぶと思います。でも遊具で遊ぶ子どもをよく観察していただきたいのです。子どもはずっと遊具そのものを楽しんで遊んでるわけじゃありません。遊具をお家に見立ててごっこ遊びをしたり、障害物として鬼ごっこをしたり、遊具の近くで全然違う遊びをしていることもあります。大人が予想する遊び方とは一味違う遊び方です。ということは、遊具じゃなくても良いとは思いませんか。遊具は、ルールを守ることばかりを気にして遊び心や工夫する気持ちを削いでいるようにすら見えます。高さのある通具は自力で登ることのできないところまで簡単に登ることができるので怪我のリスクも高まり大人は冷や汗をかくこともあります。私たち親子があけぼの山公園で遊ぶときは基本的に遊具のない場所を楽しんでいます。雑草や木の枝や落ちている花を見つけてごっこ遊びをしたり、斜面になっているところを駆け降りたり登ったり、高い枝や実に手足をのばし、切り株の上からジャンプをする。こういった遊びがやりたいために、近所の遊具のある公園では無く、あけぼの山に来ているのです。欲を言えば、自由に登れる木が欲しいですし、穴を掘ったり泥んこになれる場所があると嬉しいです。大人が勝手に「これは木登り専用、ここは泥んこの場所」と区切るのでは無く、多くの子どもたちがそこで遊んでいくうちにそのような使われ方をする場所になって欲しいです。いちいち子どもが保護者に了解を得なくても「この山なら・この森なら、最低限のルールを守れば自由に遊べる」という場所、大人同士がお互い様の精神を持ち人目を気にしてビクビクしなくても良い場所。広く緑が残るあけぼの山公園なら作り出せるのではないのでしょうか。	P18「1日楽しむことができる公園」 御指摘のとおり、現状の豊かな自然環境を楽しんでいただくことは大切な視点だと考えます。一方で、様々な考え、目的をもって多くの方に来園頂いている公園であり、広い公園ですので、極力、選択肢を狭めず、幅広く選択肢を用意しておくことも重要だと考えております。 いただいた御意見を参考に、現在の豊かな自然環境の魅力に十分配慮して公園の再整備を検討してまいります。	18

No.	御意見	市の考え	頁
30	P19「地域連携による公園の魅力上」 八朔相撲、布施焼など、地域独自の行事や伝統、歴史を紹介して柏市子どもたちが胸を張って自慢できるようにしたいです。 P19「3つ目の魅力創出」 現存するどこの土地を何に変えるおつもりでしょうか。もし、富勢地域や布施地域に縁も無いような新しい分野の魅力を作り出すつもりなら、ゾッとします。言っていることとやっていることの違いに驚愕します。伝統や歴史を守る魅力を打ち出してください。 また、暑さを凌げて子どもが楽しく過ごすことのできる小川や木陰が欲しいです。夏の暑さは今後も毎年続くと思います。ぜひ対策をお願いします。	P19「地域連携による公園の魅力上」 御意見を踏まえ、取り組みを進めてまいります。 P19「3つ目の魅力創出」 魅力創出において、①現在の魅力を活かし、更に工夫して磨きをかけていく手法と、②今までとはまったく異なる魅力を生み出していく手法が考えられますが、本公園においては①を行っていくこととして整理しております。 このため、花や自然、伝統や歴史など、この地域の魅力を活かし、また強化に繋がる新たな魅力を創出することを検討しております。 水遊びについては、一定のニーズがあるコンテンツだと認識しており、公園の再整備において、導入の可能性について検討してまいります。	19
31	「季節ごとに園内や店舗を装飾する」とありますが、ここはディズニーランドとは目指す方向が異なると思います。装飾は人工的で不自然なものに感じます。「チャレンジ」して「新しい魅力」を生み出すのではなく、今ある自然の魅力を伝える方法はないのでしょうか。	多くの方が、様々な目的をもって来園されますが、例えば春のチューリップ、夏のひまわりに対して、飲食店や売店で取り扱う商品やポップが、季節を感じられない若しくは全く合わない季節感となっていれば、わくわく感もなく、魅力的な施設とは言えず、ちぐはぐな印象を与えていると考えています。 民間施設では、春らしい、夏らしい商品や装飾を行うことで魅力的な空間の創出はあたり前のことですが、多くの行政施設にある店舗は出来ていなく、魅力に欠ける施設となっていることが多いですが、あけぼの山も改善余地があると認識しております。そのため、民間企業のアイデアやノウハウを活かしながら、新しい魅力を生み出していきたいと考えております。 また、今ある自然の魅力を伝えることも、今できていない新たなチャレンジであり、従来から行っていることを継続することに加えて、必要なチャレンジを進めるという趣旨になります。	19

No.	御意見	市の考え	頁
32	P19「地域連携による公園の魅力向上」 →賛成です。特に、八朔相撲、布施焼など、地域独自の行事を紹介して伝統を受け継いでいくと良いと思います。 P19 2.施設の老朽化 →あけぼの山の倉庫となっている場所、過去の自転車倉庫(P8)もどんな使い方になるのか気になります。 P19「3つ目の魅力創出」 →少し不安です。農地や山や林を切り開いて一体何の施設を作るのでしょうか。この土地に馴染みのない新しいコンセプトを持ち込んで作る施設では無く、あけぼの山公園やその周辺にある資源を有効活用するための施設であると願っています。 P19 3.公園と農業の連携 「来園者向けのレジャー農業」 →作物を育てることはレジャー感覚で簡単にできることでしょうか。種まき、収穫など単発での参加も大いに OK ですが、継続して定期的にお手入れに参加する形が望ましいと思います。お膳立てしすぎるサービスは他でもたくさんあります。汚れ、寒さ暑さなど、苦労の中に楽しみを見出だし、作物の育て方1つをとってもいろいろな方法があることを知る機会になると良いと思います。	P19「地域連携による公園の魅力向上」 御意見を踏まえて、取り組みを進めてまいります。 P19 2.施設の老朽化 施設の老朽化も進んでいることから、今後、民間との対話を行いながら、施設扱いについて検討を進めてまいります。 P19「3つ目の魅力創出」 あけぼの山公園は昭和45年、あけぼの山農業公園は平成6年につくられた公園であります。周辺の斜面緑地などの自然環境を残し、調和するように配慮して整備を行ってきた経緯がございます。今回の公園再整備において、同様に、現在の豊かな自然環境の魅力に十分配慮して検討してまいります。 P19 3.公園と農業の連携 「来園者向けのレジャー農業」 農業体験については、現在、富勢地区ふるさと農園営農組合が、芋ほりや田植え体験を実施しているところですが、今年度より、公園運営者である指定管理者(民間企業)でも「サツマイモを育てて食べよう！」という継続的に育てることも含んだ体験イベントを開催しております。引き続き、指定管理者とコンテンツの充実を検討してまいります。	19
33	19ページの公園と農業の連携について、もっとフルーツ狩りや野菜収穫体験など公園内でアピールしても良いと思う。放送をかけたり、ポスターを掲示したり。公園で遊ぶだけでなくイベントが頻繁にあれば季節問わず遊びに行きたいと思う。屋外だけでなく、ハウスの中で体験出来るものもあれば天候が悪くても集客に繋がると思う。収穫したものを調理して食べる機会があれば食育にも繋がると思う。体験のための参加費なら少し高くても保護者は惜しまないと思う。	公園と農業の連携強化においては、御意見を参考に、情報発信の強化、体験コンテンツの内容の検討してまいります。	19

No.	御意見	市の考え	頁
34	19ページの公園と農業の連携を強く進める将来像が良いかと思えます。前項Q4でも記載しましたが、食料自給率も含め、若い世代の農業離れや農業従事者の高齢化を考えると、今時点から若い世代が農業に興味を持てる環境を提供できる次世代公園であることが理想的だと思います。	本公園と連携して農コンテンツを提供している富勢地区ふるさと農園営農組合、公園の運営者である指定管理者とともに御意見を参考に検討してまいります。	19
35	そもそもサービスを期待しません。そこにはかえって労力を掛けないでほしいです。	利用者のニーズを踏まえながら、将来構想の実現に向けて、取り組んでまいります。	19
36	「地域連携について」古くからこの地域に伝わるものに触れることができるのは嬉しいです。いろいろな世代の方と交流できることができれば尚素晴らしいと思います。	布施弁天や八朔相撲などを通じて、この地域の歴史に触れる機会、多世代との交流を創出していただければと考えております。	19
37	「有料化について」先ほど述べたことにも重なるのですが、幼少期の自然体験の積み重ねがとても大切だと思うので、有料化は反対です。いつでも気軽に子ども達だけでも訪れることのできる公園であって欲しいです。	あけぼの山周辺地域懇談会において、委員からは持続可能性確保へ向けた効率化や費用削減策の検討、公園全体で、民間との連携も含めたマネジメントを検討すべきとの御意見をいただいているところです。このため、現状の公園の魅力を維持・向上させ、かつ持続可能な公園運営を行っていくには、維持管理や運営、老朽化した施設の更新等の財源といった公園全体のマネジメントに取り組んでいく必要であると認識しております。 市としては、多くの方に御利用いただける公園となるよう、いただいた御意見も参考にしながら、検討してまいります。	20
38	マネジメントも、野山への自由なアクセスを阻害されるので反対です。	柏市では、規模の大きな公園については、公園運営（マネジメント）の視点を取り入れ、民間事業者やNPOなどの団体と連携した取組みを進めており、公園運営（マネジメント）の考えは必要だと考えております。 また、来園者の安全確保や施設の維持管理などにおいて、一定の制限を行う場合もありますので、ご理解いただければと思います。	20

No.	御意見	市の考え	頁
39	P20「市民や企業などの多様な活動を受け入れ可能な土壌づくりを進める」みんなで作っていく公園、みんなが関わり集う公園を目指して欲しいです。 規模の大きな公園は、来園者を“お客様”扱いしがちだと感じます。サービスが充実すればするほど来園者も自分が“お客様”であると錯覚してしまいます。「ここはみんなの公園です。だから少しずつみんなで作り上げ守っていきましょう。」という気位でよいのではないのでしょうか。広い公園なので関わる人が多くなりその調整は公園側にさせていただくことになりますが、斬新な仕組み作りに力を入れて欲しいです。 P20「誰もが行きやすく、利用しやすい公園」 あまり緑を削らないように新たなアクセス道路の整備をしていただきたいです。柏駅や TX の駅からのバスの本数を増やしていただきたいです。	P20「市民や企業などの多様な活動を受け入れ可能な土壌づくりを進める」 御意見を踏まえて、様々な方が参加できる仕組みを検討してまいります。 P20「誰もが行きやすく、利用しやすい公園」 緑にも配慮しながら、アクセス道路の整備を検討してまいります。 バスについては、バスの安定した乗車人数が見込めることが重要であることから、公園の魅力向上を図り、年間での来園者の増加を図る取り組みを進めるとともに、バス事業者と調整してまいります。	20
40	P20「市民や企業などの多様な活動を受け入れ可能な土壌づくりを進める」 →賛成です。みんなで作っていく公園、みんなが関わり集う公園を目指して欲しいです。	P20「市民や企業などの多様な活動を受け入れ可能な土壌づくりを進める」 御意見を踏まえて、様々な方が参加できる仕組みを検討してまいります。	20
41	「有料化」での「魅力向上」、慎重に考えてほしいです。 「安らぎやワクワクといった幸せ」を感じる場所は市民の豊かな生活の実現に必ず通ずると私も思います。イベントではなく、なんてことのない時間の中で「元気が出るし前向きな気持ちになる」ことが「効率」「速さ」「結果」を追求されがちな現代に本当に必要なことだと思います。それが叶う今のあけぼの山公園が私は大好きです。これらは、常に多くの人で あふれる場所でも実現できるのでしょうか。静けさを失い、鳥の声も木々の揺れる音も聞こえない公園ではどうでしょう。	御意見のとおり、鳥や虫の声、木の音など、自然環境の魅力があつてのあけぼの山だと考えております。 夏におけるヒグラシ(セミ)の鳴き声は夏を感じつつ、豊かな自然ややすらぎを感じるものです。 このような現在の自然環境を活かして、今後の公園再整備を検討してまいります。	20 ・ 21

No.	御意見	市の考え	頁
42	将来のビジョンについて。どれも素敵なビジョンであると思います。いつでも気軽にこれて、適度に整備された公園が居心地の良い場所になるのではないかと。自然の中で自然と触れ合える。木や花の匂いを感じたり、虫と戯れたり。整備されすぎるとこれらが減ってしまうのではないかと不安になります。多くの人は、とっても綺麗に整備され、安心安全な公園を求めるかとしれませんが、人間として大切なものが育たないのではないかと思います。どこの公園に行っても、整備してある。だから、危険なことに気づく感じる力が劣ってきているのではないかと。思い出としての公園ではなく、人間としての大切なものを育てるために必要なものは、やはり自然な自然だと思います。今私はあげほの山で青空保育をさせていただいていますが、目の前にある自然に対してどう対応していけばいいか体の感覚で学んでいます。安全に整備されてしまうと、この力は育ちません。今の時代AI化されていて、体の感覚が劣ってきています。人間として大切なものを育てる、大人も感覚を失わずにいるには整備されすぎもよくないと考えます。また、大型遊具は今人気ありますが、ものにありふれた今、自然で自分で遊びを見出す力が低下しています。色々あると魅力的に感じるかもしれませんが、さらに自然への魅力を感じる公園になって欲しいです。 今小川が整備されて、子どもたちが遊べる小川が減ってきているので、いつでも楽しめる小川を整備していただけないでしょうか。昨今この猛烈な暑さで、外遊びもままならず、夏休みしか遊ばないプールやじゃぶじゃぶ池。いつでも水と触れ合える場所があると嬉しいです。是非ともご検討よろしくお願いします。	いただいた御意見は大切な視点だと思っております。現在の豊かな自然環境の魅力に十分配慮して公園再整備を検討してまいります。一方で、公園である以上は、安全安心な公園は必要な視点であり、子どもの発達にとって必要な危険性(リスク)とは別に、判断不可能な危険性(ハザード)については、取り除く必要がありますので、御理解いただければと思います。水遊びについては、一定のニーズがあるコンテンツだと認識しております。公園の再整備においては、いただいた御意見も参考にしつつ、導入の可能性について検討してまいります。	21
43	【コメント1】著名な観光地化がVision1の1にあります。市営公園なので「市民の憩いの公園づくり」がVisionの第一に来るべきだと思います。結果として多くの(市外からの)来園者が来てくれることはいいことだと思います。 【コメント2】Visionや行動計画で何度も出てきますが、交通アクセスの改善とばらばらになっている公園全体の区画整理、デザイン化、名称統一はぜひお願いしたいと思います。	掲載の順番については、重要度から順番を決めたものではありませんが、誤解を与えるため、記載順番の検討を行います。 いただいたコメント2については、いずれも重要な視点であり、課題解決に向けて取り組みを進めてまいります。	21

No.	御意見	市の考え	頁
44	「豊かな自然や美しい花畑、歴史的資源の景観」を中心に据えることや専門的なイベントの誘致も良いと思います。しかし、いきすぎたプロモーションには反対です。宣伝に資金や人員を割くよりも、施設の充実や整備に力を入れていただきたいです。これからもSNSでバズることや、来園者の口コミや高評価により認知度が上がる時代が続くならば、大々的なプロモーションにお金をかけるよりも、1人1人の満足度を上げる施策や施設整備に予算をあてたら良いのではないのでしょうか。	大々的に費用をかけたプロモーションは想定していなく、SNSや他市のイベントに参加しPRする、市外も含め他施設と連携するなどして、プロモーションを進めていくことを想定しています。	23

No.	御意見	市の考え	頁
44	「2.世代を超えて愛される公園」 →見所充実、遊び場充実に関して不安があります。美しい景色を見て散歩し写真を撮るものを充実するだけでは、現状の満足度と大きく変わりないと思います。周辺地域で似たような公園は既にいろいろあるからです。 「どんぐり」の公園での過ごし方をご覧ください。植物に触れ、匂いをかぎ、落ちている花や実を手にしてじっくり観察し、雑草を詰んで遊び、虫を追いかけて、芝生でゴロゴロし、もぐらの穴で泥団子を作り、鬼ごっこで走ります。公園や周辺地域をぐるっと探検します。同じような探検コースでも天気や四季によって発見するものが異なり、毎回違う内容になります。子どもにとっては今のあけぼの山公園の環境だって、1日いても飽きない楽しい公園です。お手入れしていただいた季節のお花や植物は、道端に生える雑草とは違う美しさがあり感動します。でも、名前さえも知らない植物や木々にも美しさや面白さがあり、子どもはそれを感じ取っています。時代の変化なのか、今となっては自然の楽しみ方を忘れた・わからなくなってしまった大人がたくさんいます。家の周りの道や空き地にある草には何の魅力も無いと思い込む人も多いです。そして手入れの行き届いたお庭や散歩道、植物こそが感動に値するものだと思う人は多いのではないのでしょうか。粗末な表現になりますが、写真映えするようなスポットは、自然の楽しみ方を忘れてしまった大人にもとても分かりやすいもの、簡単に感動できるものです。分かりやすく感動できるものは果たして深く心に刻まれるのでしょうか。一方で、名前さえも知らない雑草や植物の姿を見て「自然って不思議だな面白いな」と思うことには大人にとっては少しコツがいるのかもしれませんが。感動に至るまでには時間がかかるかもしれません。でも多くの子どもはこの「不思議だな面白いな」という純粋な心を始めから持っています。私たちは子どもたちのその心を育みたいのです。素朴で身近な自然を子どもと一緒に楽しめる大人が必要だと思います。「見所」に注力するのも良いですが、子ども～お年寄りまで野遊び経験を積み、身近な自然の楽しみ方がわかる講座や教室を定期的に開いたら、他とは違う特長となり来園者の心にも響くのではないのでしょうか。また、「人気の高い遊具施設」の設置にも疑問があります。確かに子どもは遊具が大好きだし、遊具で遊ぶことで日常生活では使わない体の筋力やバランス感覚を養っています。しかし人気の大型遊具よりも、自由に入れて遊べる里山や林が欲しいです。でこぼこの地面を歩き走り、木に登り、斜面で滑り台をし、高い枝に向かってジャンプする。時には工夫してブランコや橋を作り出して遊ぶ。こちら先ほどと同じ粗末な表現になりますが、人工的な遊具は分かりやすく簡単に感動できるものです。絶対に楽しいです。でもそれで良いのでしょうか。子どもには、一見何も無いような場所でも目の付け所を変えて遊び見つけ、工夫次第で何でも楽しむことができる才能があります。最低限に手入れされた里山や林は、十分に楽しく魅力的な遊び場となります。柏駅前の再開発だけでは、親子が満足できる自然環境を作ることではできません。あけぼの山公園がその役目を担ってはいかがでしょうか。施設や設備の充実という点で3つ御提案があります。	「2.世代を超えて愛される公園」 いただいた御意見や視点も、今後の公園の将来にとって、重要であると考えております。見所だけではなく、自然そのものの環境を大切にしていって視点をもちながら、将来像の実現に向けて取り組んでまいります。	23

No.	御意見	市の考え	頁
44	1黒山や林 上記に記したように、里山や林は子どもにとって遊びの場学びの場となります。周辺地域を見ても、人が入って遊べる里山や林がある公園はなかなか見つかりません。無いということは、きっと管理が大変であることも想像できます。利根川のすぐ側なので野生動物とも隣り合わせでしょうし、その他の害虫や外来植物の対策、来園者の怪我や事故のリスクもあります。こういった問題は、柏市の産学連携事業で企業や知識人と一緒に対策を施していくことはできないでしょうか。怪我や事故は、来園者の自己責任ということで回避できないでしょうか。柏市の端っこ、まだまだ緑が残るこの地域だからこそできる取り組みかと思います。コンクリートで舗装して歩きやすく掃除しやすい場所を作るよりも、木々に覆われ心地良い風が吹き抜ける環境は地球を守る観点からも有益なことと思います。里山などの自然整備は簡単なことではありませんが日本の未来にとっても大切な取り組みだと思っています。 2小川やじゃぶじゃぶ池 花畑(P8)に水路があります。以前は水が流れていましたが今は使われていません。管理に手がかかるという理由で水を流さなくなったと伺っています。ここを再び利用し小川やじゃぶじゃぶ池として整備するのはいかがでしょうか。子どもたちは季節を問わず水で遊ぶことが大好きです。年中自由に手や足を水につけ、夏は木陰の中で水遊びしたり、冬は葉っぱを浮かべたり、工夫して遊ぶことができれば素敵な魅力となります。昨今は地球温暖化により夏は外を出歩きたい日々が続いています。冷房の効いた部屋の中は快適ですが、子どもたちには適度に陽の光を浴びて外で思い切り遊んで欲しいものです。小川があれば、暑さの厳しい季節になった時に涼を求める親子の来園者も増えると思います。現在、近隣のじゃぶじゃぶ池は幼稚園や小学校の夏休みの期間しか開いておらず、未就園児の親子は外への行き場が無く困っています。ミストやリズムに合わせた噴水などではなく、川や池が良いと思います。思い切って水に触れ遊ぶことができる場所。水質管理など大変でしょうが検討していただきたいです。 3大きな屋根のある東家や休憩所 雨風が凌げる場所もあると良いです。小雨程度なら散歩をする人も見かけますし、「どんぐり」では雨や水たまりを楽しんで探検をしています。少し休憩する時やお弁当を食べたい時に、大きい屋根の場所があると安心して多少の悪天候やお天気雨でも遊びに来ると思います。よく「全天候型の遊び場」というキャッチフレーズの施設を見かけます。蓋を開けてみれば大型の屋内遊戯施設で、雨の日でも室内なので安心して遊べる場所だそうです。あけぼの山公園は公園ですから、少しの悪天候であっても外で楽しむことができるような工夫を考えても楽しいと思います。	1. 里山や林 御意見のとおり、里山や林は非常に大切な環境であり、現存する自然環境は大切であると考えます。この将来像の整理にあたっては、学識の方にも御意見をいただきながら、進めており、今後も管理面のリスクや豊かな自然環境を活かした整備についてアドバイスをいただきながら進めてまいります。 なお、本公園はあくまで市の公園として提供していることから、園内での事故やケガの全てが、野山のように自己責任とは考えておりません。 また数が少ないですが、市内にある自然豊かな公園等は、こんぶくろ池公園、下田の杜、手賀の丘公園などがございます。 2. 小川やじゃぶじゃぶ池 御指摘の水路については、水路そのものの破損、ポンプの老朽化により、現在、運用を止めてあります。御提案のとおり水遊びについては、一定のニーズがあるコンテンツだと認識しており、公園の再整備において、導入の可能性について検討してまいります。 3大きな屋根のある東家や休憩所 大屋根についても、雨天時や暑い夏場において、屋外で過ごすことができる公園施設の中でも一定のニーズのある施設だと認識しております。こちらについても公園の再整備において、導入の可能性について検討してまいります。	23

No.	御意見	市の考え	頁
45	P23「2.世代を超えて愛される公園」 観光に力を入れ広範囲の地域から来た来園者は、年間で何回あけぼの山に来るのでしょうか。来園頻度を上げるために、花畑や映えスポットや新しいサービスや第三の魅力を作り出そうとすることは理解できます。 でも、少なくとも現存する大きい規模の公園と同じことをやっても勝ち目はないと思います。そもそも現時点で観光が最大の強みではないのに無理をして取り入れたとして、地元住民に愛される場所になるのでしょうか。地元の人や柏市民が愛せないなら、世代を超えて愛され続けることはないと思います。あけぼの山は他の公園にはない独特色を強めるべきです。あけぼの山独自のものは何か。 この地域に伝わる伝承や歴史的な資源はもちろん、自然や農業ではないのでしょうか。柏市の北部地域にも位置するのでこの地域の特色でもある「学」も合わせて、自然や農業を学べる場所にしてはいかがでしょうか。人と共存できる里山作りや森作り、お米や野菜を買うことが当たり前の消費者が農業について考えるきっかけ作りは、まだまだ緑が残るこの地域なら挑戦できることです。子どもの頃は、田畑や野山で存分に遊び、遊びながら触れながら環境保全も学んで、自然の中で過ごすことを日常にする。 ・成長していく中で大人となり、大人も子どもの遊びを見守りながら自然や農業に触れ、守り継いでいく。 地道な取り組みですが、日本規模地球規模で見ても必要な事かと思えます。柏市民を大いに巻き込んで、遊び、学び、保全、管理の流れは作れないのでしょうか。派手な宣伝をしなくても興味のある人は訪れます。 地域の人やこの地域を気に入る公園作りをする人が増えれば、世代を超えて愛される公園になるのではないのでしょうか。	P23「2.世代を超えて愛される公園」 本公園は、年間来園者50万人を超える、柏市の主要な観光地となっています。ほぼ市内利用しかない他の公園と異なり54%の方は市外の利用者となっています。これは、本公園を魅力に感じて、遠くからも足を運んでいただいていることであり、市としては、今ある観光地としての魅力を止めてしまうのではなく、今後も継続していくべきと考えております。 あけぼの山独自のものは、御指摘のとおり、布施弁天や流通、交通の歴史やここの豊かな自然環境です。これらの魅力を活かした独自の取り組みとなるよう、検討を進めてまいります。	23

No.	御意見	市の考え	頁
46	・今ある遊具をリメイク、年齢別に遊べるアスレチックを作る（小さい子向けエリア・小学生向けちょっと難しいアスレチック・ユニバーサル遊具など）・花のトンネルをつくる。・水遊び広場をつくる。・お花見広場をつくる。お花見のそばで子どもが遊べるようにする。・キャラクターと提携した遊具を作る。・フォトスポットを作る。・動物ふれあい広場をつくる。（ヤギやひつじ、馬、うさぎなど。小学校の草を餌にする。）・場所によって有料化する。・季節ごとのライトアップをする。・ラジコンコースを作る。・道に絵を描き楽しくする。・室内でも遊べるところや、手ごろなレストランを作る。・謎解きイベントをする。・花や花束の販売。・鯉の餌やりができる。・あけぼの山公園でとれた野菜の試食会。・夏に水鉄砲祭りをする。・体験活動を充実させる。野菜作り、工作、農業体験（芋ほり）など・季節の植物を植える体験・スポーツができるエリアをつくる。（小さいバスケやサッカーコート）・魚釣り体験ができる。・虫取り教室をする。・クリスマスやハロウィンに仮装できるイベントをする。・夏祭りをする。	御提案いただいた様々なコンテンツを参考に、検討してまいります。	—

〈4〉行動計画について

No.	御意見	市の考え	頁
47	23ページ「子どもの自由な遊び場について」大きな遊具は子ども達にとってとても魅力的だと思います。しかしそれだけではなく、里山の自然の中にある不思議や発見を親子でじっくりと楽しむことも子ども達、また私たち大人にも大きな魅力があると思います。遊具があれば子ども達は勝手に遊ぶかもしれません。その間親御さんは木陰で遊ぶのを見守っている。そうした光景ではなく、親も子も一緒になって同じ目線で公園内の自然を感じることができれば遊具遊び以上に親子の思いの繋がるよい1日になるのではないかと思います。	いただいた御意見も参考に、現在の自然環境を活かして、今後の公園再整備を検討してまいります。	23
48	p.23 2の項、施策4遊具施設は子どもに人気なのではなく大人に人気なのだと私は感じます。大人が作りだした遊具で遊ぶことは本当の意味での自由に（自らの声に由来して）遊ぶこととは異なると思います。 p.24 1の項、施策8 ランタン、マルシェ、体験コンテンツはあけぼの山の目指す方向にのっとっているのですか。「風車と花畑」「自然の豊かさ」「歴史的資源」とは異なるように思います。 p.26 「市民の豊かな生活の実現（安らぎやワクワク）、日々の活力…」という点、同じように思います。安らぎとワクワクの両方が大切だと強く感じます。ワクワクだけ、刺激だけでは豊かとはいえません。どうか、安らぎを守ることを忘れないでほしいと思います。	P23. いただいた御意見も参考に、子供の遊び場を検討してまいります。 P24.風車・花畑, 自然, 歴史とイベントはどちらも公園に必要なコンテンツであると考えておりますが、軸となるのは風車・花畑, 自然, 歴史になるものと考えています。 P26.いただいた視点も踏まえて、やすらぎとワクワクの両立する公園を目指してまいります。	23 ・ 24 ・ 26
49	P25「施策 17の公園サポーター」 「どんぐり」は基本的に親子一緒での活動のため会議に参加できないことが多いです。 公園を利用する他の団体も生活スタイルの違いや何らかの理由で参加できないグループもあるかもしれません。 こういった団体や興味のある個人も少しでも関われるような体制にしていきたいです。	様々な方にも御参加いただけるような仕組みを検討してまいります。	25

No.	御意見	市の考え	頁
50	26ページ あけぼの山公園は、我が住まいの布施新町に隣接しており、昭和55年、娘の富勢東小学校入学に合わせて転居したので、それ以来何かにつけ、よく立ち寄っている場所です。これからも行けば、楽しい素敵な公園を願います。	多くの方に御利用いただける公園を目指し、取り組みを進めてまいります。	26
51	自然を知る、自然で遊ぶ、そんな機会を増やしてもらいたいです。おもしろ理科先生！みたいな講師を招いてみるのはいかがでしょうか。大型施設などに費用を費やすのであれば、思い出だけでなく、あけぼのやまでやったことをお家でも！みないなことができれば、心の豊かさにもなるのではないかと思います。	公園運営者である指定管理者(民間)と調整しながら、魅力的な事業を展開できるよう努めてまいります。	—
52	柏市民や近隣の我孫子市民が公園作りに関わっていく仕組みを取り入れてください。	現在、様々な方が公園作りに関わっていただく仕組みとして、ガーデンコミュニティ活動「あけぼの塾」を進めております。御興味ございましたら、あけぼの山農業公園まで御連絡ください。	—
53	柏ネイチャーラボのような名称であけぼの山～手賀沼周辺含めて、自然と触れ合いながら、農業にも触れることができる次世代エリアとして確立していただきたいです。また、公園には、毎日のルーティンで通っていただく方も増やせるよう、今後ますます増える高齢者の方々をメインターゲットに、台湾等の公園で設置されている健康器具、足つぼエリア等の遊具兼健康機器の配置があっても良いと思います。	いただいた御意見も参考に多くの方に御利用いただける公園を目指し、取り組みを進めてまいります。	—

No.	御意見	市の考え	頁
54	【施策2】フラワーセクション開催はいいと思いますが、いろいろな業者が切磋琢磨していいものを提供してほしいと思います。Trialgardenという一業者だけに限定するのは違和感があります。 【施策3】花などの見所充実→大変いいと思います。一市民として園芸ボランティアとして支えたいと思います。 【施策4】遊具→子供が遊べるよう、昔あったようなアスレチックを設置すべきだと思います。私の子どもたちもよく遊ばせてもらいました。 【施策5】名称統一→大賛成。2028年度公表よりもっと早く決定してほしいと思います。また、本館のある公園の風車側の門の「裏門」という名称を早くやめるべきだと思います。 【施策7】リニューアル→大賛成 【施策10】民間連携による施設整備→オープンスペースのある素敵なカフェと地産地消のメニューがいいと思います。北柏ふるさと公園の「花小鳥」が参考になると思います。 【施策11】既存施設の整理→温室で花や野菜の苗を育て公園内の売店で販売すれば、地元の農家との連携にもなると思います。 【施策14】区画整理→大賛成 【施策17】多様な活動→公園サポーターには地元の高校生(生徒会や部活動等)も加えれば、持続可能な活動になると思います。 【施策18】インフラ整備→大賛成 【その他】10年のスケジュール工程表になっていますが、「市民の憩いの広場」として今すぐにできることは、本館のある公園の開放だと思います。市民として、なぜ施錠して閉ざしているのか不明です。地域の人は現在の9時～17時以外にも朝夕散歩等で訪れます。他の市営公園や県立柏の葉公園を見ても、公園を施錠しているところはないように思います。 以上よろしく願いいたします。	【施策2】フラワーセクションの開催 TrialGardenに関しては一事業者に限定した取り組みではありませんが、フラワーセクション、TrialGardenともに、より多くの事業者にも御参加いただけるようお声がけしてまいります。 【施策3】花などの見どころ充実について ボランティアの皆様の御協力も得ながら、花の魅力を充実してまいります。引き続き、御支援賜ればと思います。 【施策4】遊具の設置について 来園者等のニーズを踏まえながら、検討してまいります。 【施策5】名称統一について 公園名称の統一に向けて、取り組みを進めてまいります。裏門の名称変更については、公園運営者である指定管理者(民間)とともに現在検討を進めております。 【施策7】リニューアル全般 多くの方に御利用いただけるよう公園再整備に向けた取り組みを進めてまいります。 【施策10】民間連携による施設整備について 地産地消の観点も踏まえ、取り組みを進めてまいります。 【施策11】既存施設の整理 いただいた御意見も参考に取り組みを進めてまいります。 【施策14】公園区域の設定 将来構想の実現には必要な施策であり、取り組みを進めてまいります。 【施策17】多様な活動や連携 様々な方に御参加いただけるよう仕組みを検討してまいります。 【施策18】交通インフラ整備 将来構想の実現には必要な施策であり、取り組みを進めてまいります。 【その他】公園の開放について あけぼの山農業公園は、他の都市公園と成り立ちが異なることもあり、条例によって時間の制限を行っております。いただいた御意見も参考に今後の運営方法を検討してまいります。	—